

自殺予防につながる各教科等における学習内容・活動について

- 自殺予防教育は、「早期の問題認識（自他の心の危機に気付く力をつける）」、「援助希求的態度の促進（相談する力を育む）」を目標として、核となる教育活動（①自殺の深刻な実態を知る、②心の危機のサインを理解する、③心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を学ぶ、④地域の援助要請を知る）やその前提となる下地づくりの教育活動（生命を尊重する教育、心身の健康を育む教育、温かい人間関係を築く教育等）で構成される。
- これらは、各教科等の特質を踏まえた上で効果的に実施教科等決定し、学校の実情、子供の実態に合わせて組織的、計画的に実施することが望ましいと示してきたところ。このため、各学校等の実態に合わせて、核となる教育活動と下地づくりの教育活動は、指導の連続性を踏まえて一体として行われている場合もある。
- 例えば、中学校段階では、自殺予防につながる教育として、各教科の学習指導要領や解説等において以下の学習が行われるよう促している。

保健体育	特別の教科 道徳	特別活動
<p>✓ 生徒の自殺予防につながる学習としては、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。 ○ 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。 <p>などの指導が行われている。</p> <p>✓ これらの学習については、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神と身体は、密接な関係があり、相互に影響を与え合っていること。 ・ 心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であること。 ・ ストレスの影響は原因そのものの大きさとそれを受け止める人の心や身体の状態によって異なることや、個人にとって適度なストレスは、精神発達上必要なものであること、過度なストレスは、心身の健康や生命に深刻な影響を与える場合があること。 ・ ストレスへの対処方法として、友達や家族、教員、医師などの専門家などに話を聞いてもらったり相談したりするなど色々な方法があり、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であること。 <p>などの指導を促している。</p>	<p>✓ 道徳教育の要である特別の教科 道徳における児童生徒の自殺予防につながる学習としては、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人との関わりに関することとして、「思いやり、感情」、「友情、信頼」 ○ 生命や自然、崇高なものとの関わりに関することとして、「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」などの指導が行われている。 <p>✓ これらの学習については、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「思いやり、感謝」では、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかげがえのない存在であるということをしつかりと自覚できるようにすること。 ・ 「友情、信頼」では、人間として互いに人格を尊重し高め合い、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していこうとする意欲や態度を育てていくこと。 ・ 「生命の尊さ」では、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身につけさせること。 ・ 「よりよく生きる喜び」では、自分だけが弱いのではないということに気付かせること、生徒が自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち、自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるようにすること。 <p>などの指導を促している。</p>	<p>✓ 特別活動の学級活動における生徒の自殺予防につながる学習としては、例えば、「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の個性の理解との尊重、よりよい人間関係の形成 ○ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 ○ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成などの指導が行われている。 <p>✓ これらの学習については、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活や社会生活において互いを尊重し合うことが重要であることを理解し、自己の個性を肯定的に捉え、自他のよさや可能性に気付き、それらを生かして協力し合える人間関係を築くことができるようになること。 ・ 思春期の心と体の発達等を正しく理解し、自己の悩みや不安を解消しながら自他の人格を尊重した行動ができるようになること。 ・ 心身の機能や発達、心の健康についての理解を深め、生涯にわたって積極的に健康の保持増進を目指し、安全に生活することができるようになること。 <p>などの指導を促している。</p>